


守監発第 6 号
令和3年8月11日

守谷市長 松丸修久様

守谷市監査委員 高瀬尚則 

守谷市監査委員 堤茂信 

令和2年度守谷市各会計決算及び各基金運用状況審査意見書の
提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定により審査に付された令和2年度における守谷市一般会計及び特別会計の歳入歳出決算並びに同法第241条第5項の規定により審査に付された各基金の運用状況について審査したので、次のとおり審査意見書を提出する。

令和2年度守谷市各会計決算及び各基金運用状況審査意見書

1 審査の対象

守谷市一般会計歳入歳出決算
守谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算
守谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
守谷市介護保険特別会計歳入歳出決算
守谷市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算
守谷市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
各基金の運用状況を示す書類

2 審査の期間

令和3年7月19日から令和3年8月11日まで

3 審査の方法

守谷市各会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書について、関係法令に準拠して作成され、これらの計数の正確性とその会計処理が適正に行われているかを関係書類と照合するとともに、関係職員から説明を聴取し、定期監査、例月現金出納検査等の結果を参考として、収入支出事務の適法性、的確性の確認を行い、予算が適正かつ効率的に執行されたかを審査した。

また、各基金の運用状況を示す書類について、その計数の正確性を検証するため、関係帳簿等との照合その他通常実施すべき審査を実施したほか、基金の運用状況の妥当性を検証するため、関係書類を審査した。

4 審査の結果

審査に付された守谷市一般会計歳入歳出決算書、守谷市各特別会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して調製されており、その計数は、関係諸帳簿その他証書類と照合した結果、予算の執行に関連する事務の処理は適正かつ効率的に執行されていると認められた。

また、各基金の運用状況を示す書類の計数についても関係諸帳簿、証拠書類と符合しており、基金の運用状況は妥当であると認められた。

5 審査の意見（各会計の状況）

【一般会計】

歳入決算額は383億8,858万3,786円で、前年度と比較して135億2,334万5,761円（54.4%）の増額となった（令和元年度と平成30年度の比較：26億9,220万2,709円の増額，12.1%の増）。

歳出決算額は357億5,809万405円で、前年度と比較して132億6,329万4,305円（59.0%）の増額となった（令和元年度と平成30年度の比較：15億3,195万988円増額，7.3%の増）。

決算の状況は、前年度と比較して歳入歳出とも増額となっている。

歳入の状況としては、前年度と比較して国庫支出金の増額及びふるさとづくり寄附金の増額などが挙げられる。

なお、歳入における財源の構成比は、自主財源が50.2%（前年度：69.4%）、依存財源が49.8%（前年度：30.6%）という状況である。

歳出の状況としては、前年度と比較して総務費、民生費、商工費、土木費及び教育費が増額となっており、主な理由として、総務費では、特別定額給付金給付事業、民生費では保育所整備に関する費用、商工費では、新型コロナウイルス感染症経済対策商品券事業、土木費では市道整備改良事業、教育費では、学校給食センターの改築工事が挙げられる。

また、歳出における目的別の構成比が増加となった主なものは、総務費が前年度15.3%に対して31.7%、となっている。

次に、特別会計を合わせた普通会計における財政分析指標については、財政力指数（単年度）が0.997（前年度：1.003）、経常収支比率が91.2%（前年度：84.9%）、公債費負担比率が6.3%（前年度：7.4%）となっている。

【国民健康保険特別会計】

歳入決算額は52億3,462万5,004円で、前年度と比較して3億8,148万8,223円（-6.8%）の減額となった（令和元年度と平成30年度の比較：2億861万1,895円の減額，3.6%の減）。

歳出決算額は51億2,469万4,931円で、前年度と比較して4億1,370万6,415円（-7.5%）の減額となった（令和元年度と平成30年度の比較：1億9,261万8,025円の減額，3.4%の減）。

歳出の状況としては、昨年度と比較して保険給付費等全体的に減額している。

一般会計からの法定外繰入も行われず、国民健康保険支払準備基金の取り崩しもない。

【後期高齢者医療特別会計】

歳入決算額は7億1,675万4,709円で、前年度と比較して1億366万360円

(16.9%)の増額となった(令和元年度と平成30年度の比較:4,453万9,595円の増額,7.8%の増)。

歳出決算額は7億1,305万7,647円で,前年度と比較して1億184万663円(16.7%)の増額となった(令和元年度と平成30年度の比較:4,554万1,922円の増額,8.1%の増)。

令和3年3月末における被保険者数は6,778人(令和2年3月末:6,436人)で,人口に占める割合は9.7%(令和2年3月末:9.4%)となっている。

【介護保険特別会計】

歳入決算額は37億2,638万1,443円で,前年度と比較して1億9,722万7,141円(5.6%)の増額となった(令和元年度と平成30年度の比較:2億2,617万2,384円の増額,6.8%の増)。

歳出決算額は35億5,056万1,207円で,前年度と比較して1億6,130万5,962円(4.8%)の増額となった(令和元年度と平成30年度の比較:1億5,234万5,825円の増額,4.7%の増)。

歳出における保険給付費は30億9,539万6,720円で,歳出総額の87.2%を占めている(令和元年度:30億6,979万6,112円(歳出総額の90.6%),平成30年度:29億2,537万3,339円(歳出総額の90.4%))。

守谷市の高齢化率(65歳以上人口)は,各年4月1日現在,平成31年が22.2%,令和2年が22.6%,令和3年が23.1%である(令和3年:茨城県29.8%,全国28.9%)。

また,守谷市の要介護認定率は,各年4月1日現在,平成31年が11.78%,令和2年が12.25%,令和3年が12.35%である(令和3年4月:茨城県15.6%,全国18.7%)。

茨城県や全国と比較して,守谷市は高齢化率及び要介護認定率とも低い水準となっているが増加傾向となっている状況が続いている。

【介護サービス事業特別会計】

歳入決算額は169万812円で,前年度と比較して1,592万4,833円(-90.4%)の減額となった(令和元年度と平成30年度の比較:119万4,945円の増額,7.3%の増)。

歳出決算額は159万812円で,前年度と比較して1,443万8,632円(-90.1%)の減額となった(令和元年度と平成30年度の比較:286万5,968円の増額,21.8%の増)。

令和2年度から地域包括支援センターの業務を委託したことから,予防給付に係るケアマネジメント業務も併せて委託しており,令和3年3月末におけるケアプラン作成件数は0件(令和2年3月末:1,901件)となっている。

【農業集落排水事業特別会計】

歳入決算額は4,780万2,006円で、前年度と比較して103万425円(-2.1%)の減額となった(令和元年度と平成30年度の比較:487万2,058円の増額,11.1%の増)。

歳出決算額は4,386万1,727円で、前年度比較して239万5,787円(-5.2%)の減額となった(令和元年度と平成30年度との比較:583万1,472円の増額,14.4%の増)。

令和3年3月末における施設の使用戸数は191戸(令和2年3月末:190戸,平成31年3月末:191戸)となっている。

【基金運用状況】

各種基金についての運用は適正に管理されている。